

府難研・大聴研の推移

1. 府難研 設立の経緯

大阪の難聴学級は1962年（昭和37年）に大阪市立金塚小学校に設置されたところから始まる。全国的に見ても、東京（1934年）、愛知（1959年）、岡山（1960年）に次いで設置されたと思われ、歴史は長い。

難聴学級が金塚小に設置されて以降、大阪府下でも順次、設置されていく。当時の難聴学級は、その地域のセンター校として位置づけられており、1968年に結成された大阪難聴児親の会（あゆみ会：2015年に活動を停止）の取り組み（難聴学級の設置校を増やし、充実をはかるために委員会と交渉をする等）とも関係が深い。

府難研は、1985年（昭和60年）に発足する。これ以前に、東大阪市立永和小学校、八尾市立安中小学校、吹田市立吹田第二小学校、吹田市立第六中学校、箕面市立中小学校の先生方を中心に有志による交流がされており、そのメンバーが中心になり研究会を立ち上げ、永和小学校から大阪府養護教育研究会へ働きかけ難聴教育研究分科会という位置づけを得た。

2. 事務局校

(1) 会の名称について

府難研の時は、大阪府養護教育研究会の下部組織であるため補助金をもらっていた。もともと大阪府養護教育研究会には分科会という枠組みはなく、府難研の設立にあたり公的な研究会とするため、大阪府養護教育研究会の名前を借りていたという意味合いが強かった。

2000年ごろからは、補助金をもらわなくなり、大阪府養護教育研究会（2009年に大阪府支援教育研究会と名称を変更するのに合わせて、大阪府支援教育研究会 難聴教育研究分科会と名称も変更）の名称だけ使用しているとあった時期が続いていた。

2012年に、単独の研究会にすることを協議し、大阪府の教育委員会にも説明（当時の大宮小学校の校長先生より）し、了承を得た上で、大阪聴覚障がい児教育研究会（大聴研）として名称を変える。

(2) 事務局校の変更について

2000年より以前は、毎年事務局校が変わることが多かったが、事務局の役割を明確にすること、取り組み内容の継続性や充実をはかるということを重視し（当時の吹田第二小の校長先生の意見もあり）、1997年から4年間、吹田第二小が事務局を担当し、複数年にわたり事務局を担当することが始まった。

(3) 府難研当時の事務局校

府難研：大阪府養護教育研究会 難聴教育研究分科会

- ・1985年 東大阪市立永和小学校
- ・1986年 ?
- ・1987年 ?
- ・1988年 吹田市立吹田第二小学校
- ・1989年 ?
- ・1990年 ?
- ・1991年 箕面市立中小学校
- ・1992年 枚方市立高陵小学校
- ・1993年 吹田市立第二小学校
- ・1994年 東大阪市立永和小学校
- ・1995年 八尾市立安中小学校
- ・1996年 枚方市立高陵小学校
- ・1997年 吹田市立吹田第二小学校
- ・1998年 吹田市立吹田第二小学校
- ・1999年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2000年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2001年 八尾市立安中小学校
- ・2002年 八尾市立安中小学校
- ・2003年 岸和田市立大宮小学校
- ・2004年 岸和田市立大宮小学校
- ・2005年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2006年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2007年 岸和田市立大宮小学校
- ・2008年 岸和田市立大宮小学校

- ・2009年 吹田市立吹田第二小学校 ⇒名称変更：大阪府支援教育研究会 難聴教育研究分科会
- ・2010年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2011年 吹田市立桃山台小学校
- ・2012年 岸和田市立大宮小学校

(4) 大聴研の事務局校

大聴研：大阪聴覚障がい児教育研究会

- ・2013年 岸和田市立大宮小学校
- ・2014年 岸和田市立大宮小学校
- ・2015年 岸和田市立大宮小学校
- ・2016年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2017年 吹田市立吹田第二小学校
- ・2018年 岸和田市立大宮小学校
- ・2019年 岸和田市立大宮小学校
- ・2020年 吹田市立吹田第二小学校

3. 総会・講演会

(1) 総会・講演会の経緯

2006年まで、総会時は午前中から研究会を実施していた。2000年以前は、午前中に難聴学級や通常の学級の公開授業を行い、午後から研修会を行うというパターンが多かったが、公開授業を実施できる学校が減り（また、総会・講演会の会場が事務局校で、公開授業をするのも事務局校という場合も多く、事務局校の負担が大きかったこともあり）、午前中にコース別研修会、午後から講演会を行うパターンに変えて実施することになった。

2007年からは、午前中に研修会を行うことが難しくなり、午後から2つのグループに分かれた情報交換会と総会・講演会をすることになり、2009年からは、希望者のみ会場校の難聴学級の教室（施設）見学や、教材・資料の閲覧をすることが可能な場を総会・講演会の前に設けることにした。

(2) 会場校、講演講師

- ・2002年 八尾市立安中小学校 鳥越 隆士 先生（兵庫教育大学）
- ・2003年 岸和田市立大宮小学校 河崎 佳子 先生（佛教大学）
- ・2004年 岸和田市立大宮小学校 脇中 起余子 先生（京都府立豊学校）
- ・2005年 吹田市立吹田第二小学校 品部 あゆみ さん（大阪教育大学4回生）
品部 久志 さん（京都難聴児親の会 元会長）
- ・2006年 吹田市立吹田第二小学校 西村 則子 先生（元 吹田第二小学校）
中瀬 浩一 先生（大阪市立豊学校）
- ・2007年 大阪府立堺豊学校 西垣 正展 先生（滋賀県立豊話学校）
- ・2008年 大阪市立扇町小学校 東馬場 優江 先生（兵庫県立こばと聴覚特別支援学校教諭）
- ・2009年 大阪市立扇町小学校 与那覇 里美 先生（大阪府立堺聴覚支援学校）
- ・2010年 大阪市立扇町小学校 脇中 起余子 先生（京都府立豊学校）
- ・2011年 大阪市立扇町小学校 坂本 久美 先生（元吹田市立桃山台小学校教諭）
- ・2012年 大阪市立扇町小学校 西垣 正展 先生（滋賀県立豊話学校）
- ・2013年 大阪市立扇町小学校 岡森 祐太さん（京都大学経済学部3回生）
藤岡 仁さん（関西外国語大学外国語学部3回生）
- ・2014年 大阪市立扇町小学校 赤木 葵 先生（大阪府立生野聴覚支援学校中学部）
- ・2015年 大阪市立扇町小学校 前田 浩 先生（大阪市立聴覚特別支援学校）
- ・2016年 大阪市立北中道小学校 高濱 哲郎 先生（大阪府立だいせん高等聴覚支援学校）
- ・2017年 大阪市立北中道小学校 森田 雅子 先生（大阪市教育委員会インクルーブ教育推進担当アドバイザー）
- ・2018年 大阪市立北中道小学校 李 東虎 先生（大阪府立堺聴覚支援学校小学部）
- ・2019年 大阪市立北中道小学校 大島 友佳里 先生（大阪府立中央聴覚支援学校小学部）
- ・2020年 新型コロナウイルスの感染予防のため中止

4. WANPAKU 交流会

(1) 実施に至る経緯

1999年に大阪府下にある難聴学級へ実態調査を目的としたアンケートを実施した。その結果、難聴学級の在籍数が8割の学校で1～2名であり、難聴学級を担当して1～3年という担当者が6割をしめ、他校の難聴学

級や聴覚支援学校（当時は、聾学校）と交流をしている学校はほとんどない、という状況が明らかになった。

きこえにくい子どもたちが集まり、交流できる場を設けたいと考えて検討を始めた。交流会の内容を検討する際に、遊びを中心にした会ではなく、子どもたちが普段学んでいることを発表する場を設けることを中心に考えた。大阪府の教育委員会の指導主事にも相談した上で2000年から実施することになった。

WANPAKU 交流会の名称は、第1回で司会を担当した吹田第二小の子どもたちが考え決定した。

(2) 会場・参加校数・参加者総数（子ども、指導者、保護者、機器展示担当などを含む）

・第1回（2000年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 17校	参加者総数 191名
・第2回（2001年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 25校	参加者総数 281名
・第3回（2002年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 31校	参加者総数 300名
・第4回（2003年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 36校	参加者総数 305名
・第5回（2004年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 34校	参加者総数 396名
・第6回（2005年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 42校	参加者総数 398名
・第7回（2006年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 34校	参加者総数 366名
・第8回（2007年）会場 大阪府立生野聾学校	参加校 33校	参加者総数 381名
・第9回（2008年）会場 大阪府立生野聴覚支援学校	参加校 22校	参加者総数 340名
・2009年は、会場の調整が難しく実施せず		
・第10回（2010年）大阪府立堺聴覚支援学校	参加校 15校	参加者総数 177名
・第11回（2011年）大阪府立生野聴覚支援学校	参加校 17校	参加者総数 141名
・第12回（2012年）大阪市立扇町小学校	参加校 13校	参加者総数 135名
・第13回（2013年）岸和田市立大宮小学校	参加校 16校	参加者総数 118名
・第14回（2014年）吹田市立吹田第二小学校	参加校 15校	参加者総数 141名
・第15回（2015年）大阪府立生野聴覚支援学校	参加校 19校	参加者総数 168名
・第16回（2016年）岸和田市立大宮小学校	参加校 20校	参加者総数 185名
・第17回（2017年）吹田市立吹田第二小学校	参加校 24校	参加者総数 217名
・第18回（2018年）八尾市立安中小学校	参加校 21校	参加者総数 184名
・第19回（2019年）大阪府立中央聴覚支援学校	参加校 26校	参加者総数 212名
・2020年は、新型コロナウイルスの感染予防のため中止		

(3) 交流会の内容

午前中に発表会（発表は希望する学校のみ）を行い、午後からは学校ごとではなく、グループに分かれお弁当を食べ、グループ対抗でのゲーム大会を行うことにしている。第3回から発表の後に名刺交換会を行うことになった。

発表する人（司会をする子も含め）をスクリーンに大きく映し出し読話をしやすくし、話すことを全て文字で示す、手話で表す（手話通訳を含め）など、複数の情報保障の方法を用意し、参加しているきこえにくい子（きこえにくい保護者も含め）の分かりやすさを追求している。

午前中から昼食交流会にかけて、福祉機器の展示を行い、補聴器やワイヤレス補聴援助システム、きこえにくい人が日常生活で役立つ機器などの展示・説明を行い、多くの情報を得ることができるようにしている。

4. 共同研究会

(1) 実施に至る経緯

①設立から2000年ごろまでの研究会

2000年以前は、1学期に総会・講演会と研修会を実施し、2学期に秋の研究発表会として、実践交流会（レポートが中心）や施設見学会を実施するといった取り組みを行うことが多かった（秋の研究発表会は府難研が設立した1985年から2000年まで16回実施された）。

また、3学期にも実践交流会として授業公開をしたり実践レポートやレクチャーを聞いたりするなどの取り組みが行われていた（実践交流会は1985年から1999年まで15回実施された）。

②手話学習会

2002年から、きこえにくい子どもたちにかかわる教職員の手話表現力を高めることをめざし手話学習会を実施することになった。手話学習会をスタートさせた頃は、吹田第二小を会場として、講師である坂本 久美先生が手話表現を伝えるだけでなく、ご自身の経験をふまえ、きこえないこと、手話の有効性、子どもたちへの指導方法などレクチャーし、難聴学級の担任であった西村 則子先生が難聴学級の取り組みをレクチャーすることを、3回に分けて行っていた（1学期の午後から）。

2004年には、夏休みの間に3回のシリーズ（午前中のみ、会場は生野聴覚支援学校）でおこなった。

2005年からは夏休みの1日を使い、坂本先生による手話学習ときこえない先生やきこえない方を講師として招き、手話を使った絵本の読みきかせに挑戦することなども取り入れ実施することになった(会場は、吹田市の教育センター)。

2010年から、会場を大阪市立扇町小に変更し、下記の共同研究会のプログラムの中(午前中)に、手話学習を組み入れ、入門講座のみ実施することになった。

2012年からは、入門講座、活用講座(当初は初級講座)と分けて参加者が選択できるようにした。

③共同研究会

近畿教育オーディオロジー研究会のつながりを元に、奈良、阪神地区、京都の研究会と合同で研究会を実施することになった。それぞれの研究会が実施している研修会等に他の地区から参加させてもらうことで、研修の機会が増えることを想定し、1年ごとに担当府県を決め輪番制で行うことにした。

2008年以降は、難聴学級担当者の移動等により奈良、京都、阪神地区での開催は難しくなり、大阪のみで行うことにした。

(2) 共同研究会の会場、内容、講師

- ・2000年 共同研究会としてスタートする前 奈良の研究会と一緒に実践交流会を開催(奈良市立椿井小)
- ・2001年 共同研究会としてスタートする前 阪神地区の難聴学級(伊丹市立伊丹小)の公開授業に参加
- ・2002年 第1回 大阪府立生野聾学校 講演:森田 雅子 先生(大阪市教育センター)
- ・2003年 第2回 奈良市立椿井小学校 講演:松村 勘由 先生(国立特殊教育総合研究所)
- ・2004年 第3回 京都市立二条中学校 授業見学、難聴学級の取り組み紹介
- ・2005年 第4回 宝塚市立売布小学校 授業見学、講演:西垣 正展 先生(滋賀県立聾話学校)
- ・2006年 第5回 大阪府立生野聾学校 実践交流会:堺聾学校通級指導教室、吹田第二小、泉尾北小
- ・2007年 第6回 奈良市立椿井小学校 授業見学(通常の学級)、椿井小の取り組み紹介
- ・2008年 第7回 大阪市立扇町小学校 実践交流会(障害認識):京都市立二条中・二条城北小、扇町小
- ・2009年 第8回 大阪市立扇町小学校 モコゲーム(聴覚障がいの体験)を使った授業公開
原田 美藤 先生(愛媛大学非常勤講師)の指導
- ・2010年 第9回 大阪市立扇町小学校 午前中 手話入門講座 講師:川崎 泰子 先生
午後~ テーマ別情報交換会、話題提供(扇町小 足立)
- ・2011年 第10回 大阪市立扇町小学校 第9回と同様
- ・2012年 第11回 大阪市立扇町小学校 午前中 手話入門講座(講師:川崎 泰子先生)
手話初級講座(講師:坂本 久美先生)
午後~ テーマ別情報交換会
体験談から学ぶ:講師 川崎先生、坂本先生
- ・2013年 第12回 大阪市立扇町小学校 午前中と午後からのテーマ別情報交換会は 11回と同様
手話による絵本の読みきかせ:講師 藤岡 扶美 さん
- ・2014年 第13回 大阪市立扇町小学校 午前中 手話入門講座(講師:川崎 泰子先生)
手話活用講座(講師:坂本 久美先生、藤岡扶美さん)
午後~ テーマ別情報交換会
講演:永山 奈津子 先生(松原市立天美南小学校)
- ・2015年 第14回 大阪市立扇町小学校 午前中と午後からのテーマ別情報交換会は 13回と同様
講演:永井 隆 先生(吹田市立第六中学校)
- ・2016年 第15回 大阪市立北中道小学校 午前中と午後からのテーマ別情報交換会は 14回と同様
講演:児玉 良一 先生(枚方市立磯島小学校)
- ・2017年 第16回 大阪市立北中道小学校 午前中 手話入門講座 川崎 泰子先生
藤井 一樹先生(大阪府立佐野支援学校)
手話活用講座 坂本 久美先生、藤岡 扶美さん
午後~ テーマ別情報交換会
講演:坂本 久美 先生
- ・2018年 第17回 大阪市立北中道小学校 午前中と午後からのテーマ別情報交換会は 16回と同様
講演:堀谷 留美 先生(大阪府立中央聴覚支援学校小学部)
- ・2019年 第18回 大阪市立北中道小学校 午前中と午後からのテーマ別情報交換会は 17回と同様
講演:阪田 大悟 先生(茨木市立中津小学校)
- ・2020年 新型コロナウイルスの感染予防のため中止

5. ミニ講座・見学会・研修会

(1) 実施に至る経緯

きこえにくい子どもたちへ支援や指導をする際に役に立つ情報を伝え、指導技術の向上がはかれるように、不定期にミニ講座と見学会を実施することになった。ミニ講座は、2013年から開始した。

2017年からは、難聴学級担当者に必要な情報をまとめて伝えることを目的として研修会を開始した。

(2) ミニ講座 開催場所と内容や講師

- ・2013年 第1回 大阪市立扇町小学校 聴覚障がい児の実態の把握とことばの学習
講師：足立 貢 先生 (大阪市立扇町小学校)
- ・2014年 第2回 大阪市立扇町小学校 Roger システムの活用 講師：フォナック 西日本営業部
- ・2015年 第3回 大阪市立扇町小学校 きこえにくい子どもたちへの発音指導
講師：河内 啓子先生 (公益財団法人大阪特別支援教育振興会)
足立 貢 先生 (大阪市立扇町小学校)
- ・2016年 第4回 大阪市立北中道小学校 Roger システムの活用、タッチスクリーンマイクの紹介
講師：フォナック 西日本営業部
- ・2018年 第5回 大阪市立北中道小学校 聴覚障がい者の就労支援から見えるもの
講師：土屋 敬恵 先生 (吹田市立竹見台中学校介助員)
- ・2018年 第6回 大阪市立北中道小学校 Roger システムの活用、Roger セレクトの紹介
講師：フォナック 西日本営業部
- ・2019年 第7回 大阪市立北中道小学校 人工内耳について学ぶ (基礎知識から指導内容まで)
講師：諏訪 圭子 先生 (大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 言語聴覚士)

(3) 見学会 会場

- ・2013年 大阪府立だいせん聴覚高等支援学校
- ・2016年 大阪府立中央聴覚支援学校 聴力検査室、デジタル補聴器の研修を兼ねる
大阪大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 検査室、人工内耳の研修を兼ねる
- ・2017年 児童発達支援センター「ゆうなぎ園」

(4) 難聴学級での支援や指導についての研修会 開催場所と講師：6～7月に実施

- ・2017年 第1回 大阪市立北中道小学校 同じ内容を2回実施 講師 足立 貢 先生 (大阪市立北中道小学校)
- ・2018年 第2回 大阪市立北中道小学校 同じ内容を2回実施 講師 足立 貢 先生 (大阪市立北中道小学校)
- ・2019年 第3回 大阪市立北中道小学校 同じ内容を2回実施 講師 足立 貢 先生 (大阪市立北中道小学校)
- ・2020年 新型コロナウイルスの感染予防のため中止